

偕楽園公園・弘道館の整備とまちづくり

偕楽園公園整備計画

水と緑と歴史のまちづくりに向けて、偕楽園と千波湖を中心とした低地に緑あふれる空間を残そうという考えは30数年前からあり、昭和61年(1986)に面積約300ヘクタールに及ぶ大規模な公園を作る計画が「偕楽園公園整備計画」として発表されました。

整備の基本になる考え方は右の4つです。台地に囲まれた千波湖と桜川、沢渡川、逆川などの水辺や谷の各所に、地形と自然の植生を生かしたさまざまな施設や遊歩道などが作られ、いろいろな楽しみ方ができる場所を作る計画で、自然の地形と景観を生かして偕楽園を作った斉昭の思想を現代によみがえらせたものといえます。

これが完成すると、市街地内にありながら水と緑あふれる素晴らしい都市公園になります。現在約220ヘクタールが完成しています。

- ### 整備基本方針
- 1、自然や歴史的な景観を復元し保全する
 - 2、身近に親しめる水辺づくり
 - 3、地域と密接に結び付く公園計画
 - 4、台地の眺望を生かしたまちづくり

全国都市緑化フェア



四季の原



月池

偕楽園公園の整備は、平成5年(1993)の全国都市緑化茨城フェアをきっかけに大きく進みました。フェア開催を目指して、偕楽園の下から千波湖、桜川上流にかけての整備が一挙に進んだのです。

汚れていた千波湖の水をきれいにするため、千波湖底の泥さらいと那珂川のきれいな水を千波湖に導びく設備が作られました。

偕楽園下の桜川と沢渡川の改修、桜山駐車場や田鶴鳴梅林が作られ、新しい桜川の上流にかけて両岸が土盛りされて四季の原と月池が作られメインイベントの会場となりました。

偕楽園公園の現状

①千波公園 さくら広場には、平成10年NHK大河ドラマ「徳川慶喜」のロケ設備として「慶喜館」が設置され、平成22年に映画「桜田門外ノ変」オープンセットが作られました。いずれも撤去されましたが、さまざまな行事の会場となっています。

平成25年、千波湖中に噴水3基を設置。好文カフェと親水デッキが設置されました。

②好文亭表門通り 平成24年、向井町雷神下から好文亭表門に通じる通りが整備され景観が一新されました。弘道館から旧県庁、水戸芸術館や中心市街地を歩いて好文亭表門へ行く格好の散歩道、「一張一弛」の道ができました。



好文カフェと親水デッキ



好文亭表門通り



⑥逆川緑地

逆川沿いの谷間に、歴史広場の「浴徳泉の碑」をはじめ漱石所跡、復元された笠原水源など笠原水道に関する展示、ピクニック広場やわんぱく池、自然ふれあいの池。いきものたちの広場、湿生植物観察エリア、野鳥の森など学びと遊びとくつろぎのオアシスができています。ホタルの再生も始まっています。

⑦桜川緑地

桜川は滝下橋から下流がコンクリートの水路となり、左岸(台地側)には遊歩道が整備されました。右岸の桜川駐車場より上流は川沿いに堤防と遊歩道が完成していますが、洪水の時に水を溜める遊水地となる予定の緑地は自然の湿地のままです。

弘道館と旧水戸城内の整備

旧弘道館の敷地内に昭和5年(1930)に新築された旧茨城県庁は震災復旧工事の結果建設当時の外見を取り戻し、同時期に建設された隣接する低区配水塔とともに昭和初期の景観がよみがえりました。

旧水戸城内では、旧彰考館跡の近くに二の丸展示館が新設され、塀の白壁塀化、城下に降りる坂の拡幅と杉山門、柵町坂下門の建設など歴史を感じられる空間の整備が行われています。旧水戸城の大手門と二の丸角櫓の復元も計画されています。



すみやらの復元

③沢渡川緑地

西端の常磐大学下に芝生広場が完成しました。



④西の谷

緑に囲まれた谷間に駐車場が完成し偕楽園や中心市街地への通路が整いました。遊歩道や薬草園が設置されています。



⑤紀州堀緑地

梅香トンネル出口から千波湖に通じる道路の両側にポケットパークや展望広場が完成しました。

